

遺書

お父さん、お母さん、お兄さん、婆さん、先立つことをどうかお許してください。

俺は「困っている人を助ける・人の役に立ち優しくする」それだけを目標に生きてきました。

でも、現実には人に迷惑ばかりかけて、F（※ 友人実名）のことも護れなかった…

それに俺には思い出が多すぎました。

こんな俺が、人並みに生きて、友達を作って、人生を過ごしていく…そんな事があっていいはずないんです。

俺がいて不幸になる人は大勢いる。それと同時に俺が死んで喜ぶ人も大勢いるはずです。

でも俺はFをいじめた、B、C、D、E（※ 加害生徒実名）を決して許すつもりはありません。

奴等は、例え死人となっても必ず復讐します。

でも、この十四年間楽しいこともたくさんありました。

春は桜が出会いを運び

夏は花火が夜空に消えて

秋は紅葉が空を染め上げ

冬は白雪が乾いた心を潤す

季節が過ぎていく中で色々ありました。それが全ての思い出となって心に残っています。

家族のみんなにはお願いがあります。

1つは、自分達をどうか責めないでください。

俺が死ぬのは家族のせいじゃありません。俺自身と、Fをいじめた連中が悪いんです。

大丈夫。

ある日は日の光となり、ある時は雨となって、あなた達の心の中で生きています。

だから哀しまずに、俺の死を糧として、全力で生きて行って下さい。

2つは、俺の臓器が無事だったら、それを売ってお金にしたり、お婆ちゃんや爺ちゃんの治療に使って下さい。

それが俺に出来る唯一の罪滅ぼしだから…

それと、爺ちゃんには優しくしてあげて下さい。過去には色々あったと思いますが、それでも大事な家族です。

大切にしてください。

そして赤、青のバットインググローブは形見として下さい。

今まで本当にありがとう

そしてさようなら

君がため 尽くす心は 水の泡 消えにし後は 澄み渡る空